

記事・企画ご提案 (扶桑社 書籍編集部：担当 高橋香澄) TEL：03-5403-8870)

震災後のいま、女たちはなぜ、【年の差婚(恋愛)】に向かうのか？

5年ぶりの国勢調査(平成22年版 抽出速報)～未婚率、さらに上昇か!?

負け犬論争 婚活ブーム 婚活疲れ...そしていま、標的は「年上(年下)男性」へ!

間もなく、総務省から5年ぶりに「国勢調査 抽出速報」(平成22年版)が発表になります。

前回の調査(平成17年版)では30歳代の男女、とくに女性の未婚率が目立って上昇し、調査対象期間に起きた「負け犬(おひとりさま)論争」を象徴する結果となりました。

それから5年が経過した今回は、調査対象期間に「婚活ブーム」が起こったこともあり、一部では未婚率の減少(婚姻率の増加)を期待する声もありました。が、識者の間では「期待されたほどは伸びないだろう」「未婚率がさらに更新されるのでは?」との見方が大半です。

なぜ「婚姻率」が伸び悩んだのか？

昨年から、女性に広がる「年の差婚」願望との関係は？

先日(6月2日)発売されたばかりの、書籍『【年の差婚】の正体～なぜ同世代に惹かれないのか』(扶桑社新書)は、

明治大学文学部教授で、「婚育」の授業でも人気の心理カウンセラー・**諸富祥彦**(もろとみよしひこ)氏

「おひとりさま(マーケット)」「(05年)」と「草食系(男子)」「(09年)」で過去2回、新語・流行語大賞に最終ノミネートされた、マーケティングライター・**牛窪恵**(うしくぼめぐみ)氏、

...の二人(共著)が、20～40代男女の最新の結婚観に迫った一冊。すでに多くのマスコミにも取り上げられました。

～今回、最新の国勢調査の結果(予測)について、**牛窪氏**は

「負け犬(おひとりさま)」「(04～05年)」が取り沙汰された数年後、「婚活ブーム」(08～09年)が起こり、若い女性の結婚意欲は高まったが、08年秋にリーマン・ショックが起こり、男性の結婚意欲が減退してしまった。結果として、男性の未婚率が予想以上に上昇した

婚活に乗り出した女性のうち、交際相手が見つかったのは2割どまり。10年には「いい男性がいない」と「婚活疲れ」を嘆く女性が増え、東京・墨田区のクリニックに登場した「婚活疲労外来」も話題を呼んだ。たびたび期待を裏切られ、「婚活うつ」になる女性もいるほど



発売元：扶桑社

定価：760円(税別)

.....と、調査対象期間となった、この5年間の経緯を分析します。

ユッキーナが、女子アナが、そして一般女性が...！

20代～アラサー女子の間に、突如として起こった「年上男」ブーム

...そして、昨年から若い女子に急増しているのが「結婚相手は、4～6歳上が理想」「7歳以上年上がいい！」と「年上男」を望む【年の差婚】現象。4人に1人以上がそう答えます。

- ・ ユッキーナ（タレントの木下優樹菜さん（当時22歳））が、17歳年上のFUJIWARA・藤本敏史さんと
- ・ 元お天気キャスターの女性（当時26歳）が、19歳年上のダウンタウン・松本人志さんと
- ・ フジテレビのアナウンサー中村仁美さん（当時31歳）が、12歳年上のさま～ず・大竹一樹さんと
- ・ 一般女性（当時22歳）が、17歳年上のネプチューン・堀内健さんとそれぞれ結婚！

先の諸富教授いわく、若い女性が「年上男」を望むようになった理由は以下の3つ。

20代～アラサー女子の間に、婚活ブームや「反負け犬」意識から、「早婚願望」が高まった
しかし、景気の減退や「草食系男子」（おもに20代）の増加で、同年代の男子との恋愛が思うように結婚へと進展しない

ふと上の世代（アラフォー～40代）の「年上男」に目をやると、未婚男性が30代後半で3人に1人、40代でも5人に1人もいる。彼らは年収や精神的な面で比較的安定しており、安心感を感じさせる

アラフォー～40代女子は、「セカバー系年下クン」との恋愛・結婚に意欲！

...一方で、お姉さま世代にあたるアラフォー～40代女子の3人に1人は、「年下クンと恋愛（結婚）したい」とハッキリ口にするようになりました。いわば【逆・年の差婚】現象です。

- ・ 女優の南野陽子さん（当時43歳）が、4歳年下の男性と結婚
- ・ 女優の小雪さん（当時34歳）が、8歳年下の俳優・松山ケンイチさんと結婚
- ・ そのほか、40代女子の代表として同世代に人気の、女優・小泉今日子さんやタレントのYOUさん、磯野貴理さん、国生さゆりさんらが、相次いで年下男性との熱愛や交際を報道される！

先の牛窪氏によると、アラフォー～40代女子が「年上クン」を標的にする理由はおもに3つ。

同世代の女性は「均等法」の第一世代。仕事優先で「恋愛・結婚は先送り」にしてきた
だが出産の崖っぷち年齢になり、「結婚は後でもいいが、子どもは産みたい！」と考えるように。と
はいえ、同年代の男性は「若い女子」に目を向けがちで、結婚ニーズが一致しにくい
昨秋にNHK総合で放映され、今秋映画化される「セカンド・バージン」（17歳年下クンと40代女子との恋愛）の影響もあり、「結婚（恋愛）するなら、年下クン」がトレンドに。とくに「恋も仕事も出産も」と欲張る女子には、イクメン願望が強く家事・育児を手伝う「年下クン」が好都合

< 諸富教授・牛窪氏からのメッセージ >

時代に敏感で洗練された女子たちは、いま【年の差婚（恋愛）】に目を向けています。「60代の男性もストライクゾーンよ」と話すレディガガも、その象徴。年齢という枠にとらわれず、素顔の自分に合ったパートナーを意欲的に探す女子こそが、近い将来、未婚化・少子化に歯止めをかけてくれるでしょう